



426

編集発行人 針谷宏一  
治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都  
文京区湯島2-4-4  
平和と労働センター・全労連会館

電話 03(5842)6461  
FAX 03(5842)6462  
<http://www7.plala.or.jp/tian>  
定価 50円

## ただちに陳情・請願行動を起こし 全国大会特別決議の実践へ



創立されて以来、同盟会長は治安維持法犠牲者が代々勤めてこられました。犠牲者でない者が選出されるのは初めてで、同盟の新しい歴史を切り拓いていく先頭に立つことになりました。

しかも、新しい政治局面のもとで、同盟要求実現の可能性を切り拓くために運動を飛躍させ、国民運動へ発展させなければならぬ重大なときを迎えています。

責任の重さが、双肩にかかっています。

非才ではありますが、中央役員の皆さんにお支えいただきながら、奮闘する決意です。

第三四回全国大会「特別決議」で十一月、十二月を特別運動期間とすることを決定しました。この取り組みを成功させることが、国民運動に発展させる大きな一歩をすすめる鍵です。

力を合わせてご奮闘くださるようお願いいたします。  
先頭に立つてがんばります。

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟会長 柳河瀬 精

### 主な記事

- 第34回全国大会開く……………
- 各地同盟の大会・総会にみる特徴―続報……………
- ブロック会議―続報……………
- 抵抗の群像／小栗喬太郎……………
- 顕彰碑／竹中彰元……………
- 時の焦点／ノーベル平和賞……………
- 同盟歌壇／碓田のぼる選……………
- 書棚／『市村三男』なかむらみのる著……………

11 11 10 10 9 8 8 2

# 国民的世論をひろげ請願要求実現へ

## 新しい情勢に草の根からこたえよう

### 決意を新たにした第34回全国大会

自公政権が崩壊し、新たな政治状況の下で開かれた全国大会です。大会は代議員、役員ら全国から一二八名がつどい、中央本部役員を先頭に、地域、草の根からの請願運動と連帯し、国民的世論をひろげようと決意を新たにしました。

大会は十月二十一、二十二日の二日間、全労連会館で開かれ、二四名が発言、文書発言四名、発言は、いずれも新たな政治状況を迎えて対政府、国会、地方議会などへの国家賠償要求を強めて国民的世論を広げること。そして各地の治安維持法犠牲者の顕彰、国賠署名、会員拡大、支部建設などの経験が生き生きと語られました。大会は運動方針案と十一、十二月の「特別運動期間」の特別決議など満場一致で採択。新役員人事も大きな拍手で承認されました。ここでは特徴的だった大会発言の一部を紹介します。

### 新しい情勢の下での活動

鳥取 草刈 司



会員拡大  
目標三五〇  
名、署名は  
六二〇八筆、  
人口比一・

〇五%を達成しました。この署名の過半数は、全体会後の二年間に

全支部に確立した女性部の奮闘です。この八年間、会員を減らさず増やし続けてきたこと、団体・個人との協力者を増やしたことで

す。犠牲者の顕彰活動と結んで、映画「武器なきたたい」「日本の青空」「母べえ」「蟹工船」などに取り組みました。関東ブロック会議では、新政権のもと、国賠法の立法化に向け、「せめて人口

比一%位の目標を掲げた国民的規模の運動が必要」との発言がある。調べてみたら、〇八年十月一日現在の人口比一%以上は、秋田一・八%、和歌山一・四八%、長野一・三八%、鳥根一・〇三%、鳥取一・〇一%の五県。組織現勢でも人口比でほぼ対応しており、運動と組織拡大は車の両輪です。

新政権の歴史認識問題は今のところ不明ですが、存命犠牲者が年々少なくなり、一刻も早い国賠法の立法化が求められているが、「五〇万署名」で立法化できるのでしようか。一〇〇万とか、人口一%一・二八万とか立法化実現に必要な目標を大会で決め、それにふさわしい目標を各都道府県が掲げて運動することが必要と考えます。

### どうして市民権を得るか

和歌山 古倉 伸二



和歌山  
伊都支部  
です。こ  
れまでは

大きな成果を上げる(三ツへ続く)



実は今年の始めから自己の無知を思い知らされることになりました。一月に東京で「勝海舟を軸に日本の近現代史を考える」講演会があり、海舟については、江戸無血開城の西郷との会談ぐらいしか知らなかった私は驚いて記録集を求めました。明治政府で枢密顧問官にもなった彼が、日清戦争に反対、台湾占領・賠償要求にも反対、アジアで日本・中国・朝鮮が対等の立場で友好的に共存することを主張。つまり、現実の日本のたどった道とは全く逆の進路を明示。それが田中正造や石橋湛山の戦争と植民地支配の批判にもつながっていたことをはじめて知りました。

この記録には故吉岡吉典さんの発言がのっています。勝海舟が「日本とアジアの歴史の流れをみるうえで出発点になる人」と指摘、「韓国併合を日本は戦後どう処理したかについて書いている最中です」とも述べられています。来年は「韓国併合百年」「義和團制圧」派兵百年という年です。(巽)

(二ツより)ことはできませんでしたが、昨年十二月の役員会で、三一五記念講演会の開催を決めました。どうしたら市民権を得られるか、会員だけの学習ではダメです。大企業中心に弱者を切り捨てる雇用が横行している中で、派遣労働者の首切り反対、正規雇用を求める若い労働者のなかで小林多喜二の「蟹工船」がベストセラーになっている。この「蟹工船」にあやかって、「蟹工船の時代と現代」をテーマに元中学の社会科教師に講演を依頼し、宣伝チラシを作った。一〇〇名目標で、従来の会員を集めるだけではなく、会員以外の人に参加してもらおうと役員中心に、各種団体へ、ピラ、ニューズなどをもつてきめ細かく協力を要請。当日は、同盟以外から六五名が参加、合わせて八九名が集まり、目標は達成できませんでしたが、従来の枠を大きく超え成功しました。

講演会の成功を中心に署名に取り組み一四〇一筆で、一筆超過達成しました。会員は四名拡大、先日の総会では、今年こそ五〇名

### 「聳ゆるマスト」碑建設

広島 小栗 勉



戦前の日本帝国海軍の一大拠点であった呉軍港で一九

三二年、兵士向けの反戦新聞「聳ゆるマスト」が四号発行された。

これにかかわった人たちを顕彰しようという運動が三年前から始まりました。

なぜか？ 四年前「戦艦大和とミュー

ジアム」(入館料五〇〇円)がつ

くられ、今年七月で入館者は四〇〇万人を突破。この盛況ぶりに目

をつけた海上自衛隊が、その隣に退役した潜水艦を展示、クジラ館と称して無料で一般公開。呉港からはペルシヤ湾などに海上自衛隊がほとんど海外派兵されている。

平和教育に供するため、反戦兵士にかかわった人間の党員・支持者をふくめて三〇人近い人たちが今なお、地下に埋もれたままになっています。だからこそいま、

顕彰することに大いなる意義があると考えています。

### 県本部と支部組織確立を

高知 岡村 正弘



県同盟は二九〇名を五支部に組織。東部の三支部は署

名やカンバも超過達成します。残りは高知市南と北の二支部、この二つで県本部の半部の会員です。

昨年の署名も、東部三支部が高知市二支部の分をがんばって一二〇%を超過達成しました。

私は高知北支部、ここにいる湖摩崎さんは、高知南支部です。二人で今年こそ、支部体制をつくることを大会の場で表明します。早い時期に、「飲んで、歌って、仕事きつちり」を合言葉に、西部にも支部をつくります。

五月一日は分裂メーデーです。連合系の会場で来賓の民主党武内則男参院議員から「国会にいつ来るか」などと言いながら署名。これをコピーして組合廻りに活用。連合系の組合で「国会請願の紹介

柳河瀬新会長 左 から退任する神戸照・宮田勝副会長、久保常任理事に感謝の言葉が贈られた。



議員は武内さん」と説明すると抵抗なく受け入れてくれます。

### 拡大目標の達成と教訓

千葉 中山 功



会員目標二〇〇名を五月に達成。六月の総会では目標を

二五〇名に決定しました。教訓の第一は、犠牲者の顕彰や農民闘争などの掘り起こし(四ツへ続く)

特別決議

要求実現めざし国民運動にたかめて

攻勢的な取り組みで可能性を切り拓こう

総選挙で自公政権が崩壊し、鳩山政権が発足しました。いま、戦後六〇年に及ぶ自民党中心の政治に決別して、新しい政治に向かつていく歴史的な転換点にたっています。

これまで同盟は八〇〇万を超える国賠署名を積み上げて「治安維持法を悪法であったことを認めよ、犠牲者に謝罪と賠償を行え、治安維持法下の弾圧の実態を調査せよ」と要求し続けてきましたが、自民・公明両党によって斥けられました。

戦後補償問題では、自公政権のもとの国会で、「従軍慰安婦」問題や、シベリヤ抑留問題などで、民主、共産、社民三党が協力しあつて決議を提案してきた経緯もあります。また、これまで同盟の国会請願に対し、多くの民主党議員が紹介の労をとってくれています。新しい政治状況のもとで、まさに要求実現の可能性が生まれています。

可能性を切り拓くために、四〇年間の活動の経験を生かし、国民的運動めざして、ただちに攻勢的な取り組みを展開することが必要です。

一・一・二二月を特別運動期間とし、各都道府県本部で全国会議員を訪問し、面会を求め、要求を直接伝え、話を聞いてもらえる機会を作ってもらいましょう。また労働組合、大衆団体を訪問し運動の意義を訴えて協力を求めましょう。

二〇一〇年国会請願に向けた国賠署名の取り組みを強め、署名目標も引き上げて、会員も拡大し、これまでに倍する署名を提出できるようにするために、全会員の奮起を求めます。ただちに行動を起こしましょう。

二〇〇九年一〇月二二日

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟第三四回全国大会

(三ヶより)と結ん支部結成。市川市では渡政の墓前祭や偲ぶ会で五名拡大。松戸市では、犠牲者である高沢義人さん宅で支部準備会、学習会を開いて五名を拡大。成田市では、小作争議の関係者や家族を訪問し、当時の思い出を語ってもらいながら入会者を迎えています。二つ目は、諸外国の国家補償のあり方について「スペインの歴史の記憶法」を『治安維持法と現代』〇八年秋季号で学び、「同盟の要求は夢ではないんだ」と、論文をコピーして入会を勧め、二人の目標をやりとげています。

一人ひとりが力を発揮する支部

北海道札幌 渡邊ちか子



署名目標は 個人一万二〇〇〇筆、団体 四〇〇筆、未達成。会員は 三〇七名。昨年は一五名増やしましたが、死亡・退会で実増は八名で、会費納入は八七%です。

毎月「不屈」札幌版を発行。顕彰活動と、3・15、8・15、12・

8などの宣伝行動に取り組みます。三カ月に一回署名用紙を会員に送り、要請。行動の経験を「不屈」に載せます。署名を達成するためには、一筆に込められて人々の思いを深くつかみ会員に知らせることが大切と、話し合っています。女性部は十月十九日、一〇周年の集いを開き、北海道合唱団の演奏と「憲法を身近に」と題して竹中弁護士が記念講演しました。

四月には「田母神発言の意味するもの」をテーマに元衆院議員の児玉健次さんを講師に学習会を開き、会場いっぱいになりました。もう一つの自慢は、毎月一回の読書会です。一九九三年から始めて、宮本百合子の「十二年の手紙」、今は多喜二の「地区の人々」です。

『治安維持法と現代』を使った学習で元気をもらっています。

同盟運動の前進めざして

京都 岡本 康



今年初め、会員拡大が十分すすんでいないので奮闘(五ヶへ続く)

(四ページより)してほしいとの会議が開かれました。六九名を増やし、拡大しつつ組織整備をすすめる。署名は一万筆の達成めざして支部建設に取り組み、必ず三支部を建設します。

運動を広げるために、治安維持法犠牲者の慰霊祭を清水寺か本願寺で行いたい、反戦教師の顕彰碑の建立、丹後支部に入会した映像作家が生存する犠牲者のビデオ撮りをしたいとのこと、署名の協力をラジオで訴えたい、歴史を風化させないよう教育者と連帯して運動をすすめていきたい。

### 年末財政活動のご協力を心から訴えます

同盟要求を拒否し続けてきた自公政権の退陣を受けて開かれた全国大会は、新政権へ向けた運動を展開する決意を固めあいました。早速中央本部は、新政府への申入れ、千葉法務大臣への面会要請などの活動を行っています。新しい情勢に見合った活動を保障するための年末財政活動に皆さんのご協力を心から訴えます。

- 一、会員拡大にご協力ください。目標にあと一三五〇人です。
- 二、会費、賛助会費の納入にご協力ください。
- 三、「年末募金」(全国千五百万円)にご協力ください。
- 四、「不屈」新年号名刺広告の掲載団体を広げてください。
- 五、『治安維持法と現代』最新号(十八号)の普及を。
- 六、『抵抗の群像』一、二集の普及と代金の納入を。

### 顕彰活動と会員拡大へ

奈良 田辺 実



和歌山県の治安維持法犠牲者の名簿作成の名簿作成の経験に学ん

で、奈良県における治安維持法犠牲者の名簿作成を始めました。「特高月報」を調べて犠牲者を洗い出し、生家やお墓を探しだしてお訪ねした結果、会員を拡大し、二つの支部がつくれました。名簿作りは緒に就いたばかりで

すが、この活動を粘り強くすすめるならば、年内にはさらに五〇名の会員を拡大して二〇〇名の同盟を建設する展望が見えてきました。奮闘する決意を表明いたします。

### 二年連続二万筆を突破

兵庫 築谷時雄



前大会以降会員は昨年十二月に五〇〇名を突破、署名活動でも二

年連続二万筆を突破、尼崎市議会で県下の都市で(六ヶ下段へ続く)

### 千葉景子法務大臣に要請

取り調べ可視化、個人通報制度批准など

十月二十八日午前、治安維持法国際同盟、国民救済会などが加盟する国際人権活動日本委員会代表二三名は千葉景子法務大臣と面会し、自由権規約の個人通報制度批准、国内人権救済機関設置、取り

調べの全面可視化の実現を要請しました。同盟からは増



調への全面可視化の実現を要請しました。同盟からは増

よう求めました。千葉大臣は、「外国に比べて国内の人権状況を変えるよう法の条文をつめていきたい。国内人権救済機関は第三者的で独立したものでなければならぬ」とのべました。(写真・千葉大臣と右は鈴木亜英氏、左は増本一彦氏)

発言された代議員とテーマ

市岡彰・山口「米軍再編にともなう艦載機の岩国移駐反対闘争」

相沢寛・新潟「平和のための戦争展の取り組み」

塩田一行・大阪「顕彰活動・『時効不適用条約』批准運動・仲間増やし」

伊藤俊・北海道「五〇万目標の達成について」

高杉さと・青森「署名、会員拡大、女性部活動」

なかむらみのる・新潟「埋もれていた画家市村三男三に新しい光を当てて」

草刈司・鳥取「会員拡大目標達成と、新しい情勢の下での同盟活動」

植田泰治・神奈川「犠牲者・水谷安子さんの会員拡大、『坂の上の雲』、映画『弁護士・布施辰治』」

古川松男・富山「横浜事件犠牲者の顕彰活動」

古倉伸二・和歌山「3・15記念講演会に取り組み支部が活性化」  
加藤起・福島「田母神の妄言、

南京大虐殺と歩兵65連隊」  
山田良夫・神奈川「米原子力空母母港化反対運動の中での同盟支部活動」

小栗勉・広島「反戦新聞『聳ゆるマスト』顕彰碑の建設」

溝瀧政子・中央女性部長「第20回全国女性交流集会を成功させるために」

斎藤久枝・中央国際部長「国連人権活動とアジア諸国との連帯活動」

緒方順年・福岡「治安維持法犠牲者国家賠償法の制定について」

山崎元・東京「葛飾ヒラ配布弾圧事件」

岡本康・京都「同盟活動の前進めざした取り組み」

伊藤紀久夫・秋田「県本部の一年間の活動」  
岡村正弘・高知「戦前戦後の闘いと県本部と支部の組織確立」  
中山功・千葉「会員拡大目標達成の教訓と展望」

北口吉治・石川「会員拡大と映画『鶴彬』ころの軌跡』制作」

中元輝夫・岡山「ブロック会議で学び二名拡大し県同盟最高

の峰に」  
築谷時雄・兵庫「前大会後の活動の成果と支部づくり、支部の役割」

牛山靖夫・岩手「若い人を会員に」

田辺実・奈良「同盟の役割を自覚し、顕彰活動すすめる中で会員拡大」

橋本茂・三重「活気ある見える同盟への脱皮を」

遠山茂治・長野「支部活動つよめ署名目標達成を」

渡邊チカ子・北海道「307名会員の札幌支部活動」

田中和夫・香川「初めて全国大会に参加して」

井上敏江・大阪「日本母親大会の取り組み」  
島津昭・山形「新しい情勢の下での中央指導部の在り方」

久保田俊雄・茨城「大会議案の補足など」

宮田汎・北海道「顕彰活動について」  
片桐隆三・広島「会員拡大の経

文書発言の代議員とテーマ

(五ヶより)初めて〇八年七月に意見書を探択、女性会員は全会員の三分の一を占め、女性部会を定例化、支部も四支部になりました。署名活動では四支部が目標を超過達成し、牽引車の役割を果たしています。

目標一万五千筆をやりきるために新たな支部づくりをすすめ、連合系労組、宗教団体などへの協力を要請する。同時に全会員参加の運動を推進する。次期大会までの目標五五〇名をめざします。

験と教訓

山口マリ子・北海道「苫小牧支部の取り組み」

山口文彦・福島「一年を振り返って」

根本京子・宮城「県活動について」

阿部俊雄・東京「国賠同盟の名称について」

西田清・滋賀「署名活動の位置づけ、会員拡大」

高取国勝・山梨「一刻も早く二〇、三〇〇名の同盟をどう作るか」

### 来賓挨拶をいただいた方々

「多忙中にもかかわらず、次の方々から心のこもった来賓のあいさつをいただきました。あらためて厚く御礼申し上げます。

レッドパージ反対全国連絡センター・金子圭之事務局長、日本国民救援会・望月憲郎副会長、自由法曹団・加藤健次事務局長、全国労働組合総連合・大黒作治議長、日本共産党・宮本岳志衆議院議員

### 団体・個人からのメッセージ

健康保険病院労働組合中央執行委員長 大川 修 / 国鉄労働組合中央執行委員長 高島 伸二 / 自交総連中央執行委員長 飯沼 博 / 全運輸省港湾建設労働組合中央執行委員会 下元 幸夫 / 全気象労働組合中央執行委員長 富安一弘 / 全国借地借家人組合連合会会長 川岸 清 / 全国商工団体連合会 / 全国生活と健康を守る会 / 全国生協労働組合連合会中央執行委員長 桑田 富夫 / 全国福祉

保育労働組合中央執行委員長 前田 鉄雄 / 全日本建設交通一般労働組合中央執行委員長 佐藤 陵

一 / 全日本民主医療機関連合会会長 鈴木篤 / 通信産業労働組合中央執行委員長 山田 忍 / 日本共産党衆議院議員 塩川鉄也 / 日本共産党衆議院議員 高橋ちづ子 / 日本水協 / 日本国際法律家協会会長 新倉修 / 日本自治体労働組合総連合中央執行委員長 野村幸裕 / 日本中国友好協会会長 長尾 光之 / 日本平和委員会 / 日本ベトナム友好協会 / 日本民主青年同盟中央委員会 / 水資源機構労働組合中央執行委員長 筒井

等 / 郵政産業労働組合中央執行委員長 山崎清 / 労働運動総合研究所 / 労働者教育協会会長 山田 敬男 / 国際人権活動日本委員会 / 全日本赤十字労働組合連合会中央執行委員長 岡田 光久 / 社会民主

党幹事長 重野安正 / 非核の政府を求める常任世話人会 / 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議) / 日本共産党衆議院議員 こくた

恵二 / 日本美術会代表 首藤 教之 / 婦人民主クラブ

### 中央本部新役員・名誉役員・顧問の名簿

アイウエオ

会長 柳河瀬 精  
副会長 近江谷昭二郎  
角銅 立身  
栗田 翠  
富矢 信男  
林 洋武  
増本 一彦  
溝渕 政子  
宮田 汎  
矢島 恒夫  
山崎 元  
四津合伸子  
事務局長 針谷 宏一  
事務局次長 小池 莊市  
田中 幹夫  
常任理事 伊藤 俊  
井上 敏江  
宇野美代子  
植田 泰治  
上野 隆司  
牛山 靖夫  
岡本 康  
勝部 庸一

柄沢 義郎  
北村 直吉  
久保田俊雄  
小口 巽  
斉藤 久枝  
佐藤 一  
島津 昭  
藤田 廣登  
塩田 一行  
田中 和夫  
高杉 さと  
中川 悦良  
中元 輝夫  
引地 延子  
久野 精工  
藤本 増美  
外尾 静子  
松井 久雄  
水野 晃治  
保田 慶子  
吉田 敏平  
会計監査 佐藤 滋朗  
吉田 忠文  
理事 北海道 横山博子  
宮城 根本京子  
秋田 藤田 實

山形 国井浩丞  
福島 加藤 起  
栃木 小貫 暁  
群馬 半田 正  
埼玉 加納幸子  
千葉 中山 功  
東京 小野塚一雄  
東京 川口 弘  
神奈川 鷺尾 隆  
神奈川 宮本時男  
山梨 高取国勝  
長野 遠山茂治  
新潟 藤尾 彰  
富山 小森 修  
石川 北口吉治  
福井 吉田一夫  
岐阜 片桐義之  
静岡 漆畑長一  
愛知 飯田 勇  
三重 橋本 茂  
滋賀 西田 清  
京都 三原 哲  
大阪 鳥本高男  
大阪 柴田雅子  
大阪 橋本恵美子  
大阪 木寺鶴夫  
兵庫 築谷時雄  
奈良 田辺 実

和歌山 西村 一  
和歌山 鶴田至弘  
鳥取 草刈 司  
鳥根 寺田哲郎  
広島 片桐隆三  
山口 大田智美  
徳島 大栗丸人  
香川 宮崎文雄  
愛媛 岡田厚美  
高知 森岡幸一  
福岡 戸次達雄  
福岡 松田雅武  
熊本 國宗 直  
大分 遠入建夫  
宮崎 天水貞照  
鹿児島 里山和子  
沖縄 上原清治

名誉会長 桑原英武  
顧問 神戸 照  
小林初枝  
近藤一雄  
都留忠久  
松田岩男  
宮田 勝

名譽会長 桑原英武  
顧問 神戸 照  
小林初枝  
近藤一雄  
都留忠久  
松田岩男  
宮田 勝

名譽会長 桑原英武  
顧問 神戸 照  
小林初枝  
近藤一雄  
都留忠久  
松田岩男  
宮田 勝

名譽会長 桑原英武  
顧問 神戸 照  
小林初枝  
近藤一雄  
都留忠久  
松田岩男  
宮田 勝

# 各地同盟の大会

## 総会に見る特徴

― 続報 ―

### 署名目標突破するなかで

青森県本部

七月十一日、第二〇回青森県大会は青森市で開催され、各支部から三一名が参加。高橋千鶴子衆議院議員(県同盟顧問)からの力強いメッセージも寄せられました。

五月の国会請願署名では目標の一〇%を達成し、支部建設や会員拡大でも一定の前進があり、顕彰行事の取り組みを成功させた運動、遅れている地方自治体請願行動や風化させない取り組みの現状など、県本部の報告を受けた後、各支部・会員の実践について五人が発言。会議を定期的に関き、訴えは幅広く、また支部活性化の重要性など確認しあいました。

大会は新役員の承認、第二〇回青森県本部大会として総選挙での奮闘を誓う特別決議を採択して大会を終りました。

### 歴史の新しい転機に立って

福島県本部

福島県本部第三二回定期大会は、東北唯一日本共産党の議席を守った喜びのなか、九月五日に開催されました。

「同盟は歴史の新しい転機をめざして奮闘しよう」との実感のこもった加藤会長の挨拶ではじまりました。幹事会から、四〇三五筆の前進を土台に五〇〇〇筆を必ずの提案を確認しました。また支部活動を組織的にとりくみ、それぞれの分野の中で同盟の原点を学び、運動を広げるなど話し合いました。大会は、自由民権運動、農民一揆、そして反戦運動の歴史をしっかりと学び革新運動の前進のため、県同盟も奮闘することを確認して終わりました。新役員は会長加藤起、事務局長山口文彦。

大会と併せて行われる恒例の記念学習講演会は、「南京大虐殺の実像にせまる」で、いわき市在住の市民研究者です。公開講座で市民など四〇名が参加され、田母神元航空幕僚長の戦争論を厳しく批判しました。

## ブロック会議

― 続報 ―

### 横浜事件端緒の地で開く

北信越ブロック会議

「泊・横浜事件端緒地」紋左旅館で十月八、九日開催。北信越五

県二七名の代表、開催担当の同盟富山県本部などが中心になって真新しい記念碑の建立した由緒ある歴史的な地でのブロック会議となりました。総選挙後の新しい政治情勢が切り開かれたなかでの開催、増本一彦副会長の基調報告と、「横浜事件とこれからの同盟活動の方向と課題」の講演を受けて会議に入りました。

県本部が挙げて「ふたたび戦争と暗黒政治を許してはならない」と、「碑」建立を通じて「多くの人々の世論に」と、取り組んだ富山の経験。映画「鶴彬 こころの軌跡」製作運動、広範な人々を結集して先進的に取り組み、会員拡大に成功している石川の活動。新潟の「平和のための戦争展」開催、毎年開催の基礎が出来た活動。会議を開いて会員に声をかけ、署名に取り組み会員を増やしてい

る長野の支部活動の発言、討議があり、迫っている全国大会を成功させようと決意しました。

(台風18号で列車運休、長野、新潟五名欠席 北村直吉記)

### 顕彰と会員拡大で前進

東海ブロック会議

十月六、七の両日、三重県武蔵野町に東海四県から五一名が参加して東海ブロック会議を開催。

はじめに神戸照中央本部会長代行から「戦争犯罪と人道に反する罪への告発・追及・補償運動の世界的広まり」と題する報告があり、各県の報告・討議に移りました。

岐阜県の東濃西・中濃支部の署名運動の経験。同県本部女性部が先頭に立つて行った八・一五アピールの街頭配布活動。愛知県の「平和のための戦争展」の取り組み。尾西支部の岩田義道研究。鶴彬訪問ツアーの取り組み。静岡県の女性部確立。三重県の「犠牲者顕彰」冊子の作成と普及。会員拡大など、熱心な発言がありました。最後に神戸会長代行の発言があり、皆で全国大会後の活動に全力を挙げることを誓いました。(水野晃治)



抵抗の群像



# 草莽のコミュニスト

## 小栗喬太郎

小栗喬太郎の生家は愛知県半田市の材木問屋でしたが、喬太郎が生まれた一九〇六年頃は、家業が縮小して家庭的には恵まれず、祖母の手で育てられました。

地元の半田中学では読書や文学を好み、友人と同人雑誌などを発行しています。

卒業後、北海道・十勝平野の牧場で働きますが、その頃トルストイ的な理想主義に感化され、徴兵による軍隊生活の体験から、軍国主義・天皇制に対する疑問を持ち社会主義への関心が芽生えます。

軍隊を除隊後は一時名古屋の会社に勤め、この頃から、知多地方の無産運動の草分けであり、印刷所を経営していた加藤今一郎やその三男の加藤力らを知り、大阪で共産党の非合法活動をしていた宮原末勇にアジトの斡旋するなど協

力しています。

しかし喬太郎は、マルキシズムの系統的な学習の必要を痛感して、自費でドイツに単身留学を決意します。一九三一年、演劇家佐々木孝丸の紹介でベルリン滞在の藤森成吉を訪ねます。

ベルリンでは藤森夫人の世話で下宿、ベルリン大学付属のドイツ語研究所に通い、反戦、反帝運動の会議や集会に参加。ドイツには千田是也、鈴木東民、藤森成吉ら多くの日本人が国崎定洞(衛生学者)の指導によってドイツ共産党に入党させており、喬太郎も三二年九月頃ドイツ共産党に入党。日本の満州侵略の抗議やナチスの影響からスポーツ団体を守る闘いなどで活動しています。当時の活動について喬太郎は「日本・中国よりももっと範囲を広げて、アジア

人とドイツ人との国際的連帯の強化、アジア諸問題に対する研究会、在独朝鮮人、インド人、インドネシア人ら各民族によびかけて「革命的アジア人同盟」が結成された」(『ある自由人の生涯』佐藤明夫編39ページ)と記録しています。

三三年一月、ヒトラー内閣が成立し、ドイツでの活動はきわめて困難となり、彼は日本での活動を志して帰国。その翌月ドイツでは「国会放火事件」、三月「ドイツ共産党非合法」と、ナチスによる弾圧の嵐が吹き荒れていました。

帰国後の喬太郎は、翻訳の仕事をしながら実践活動に入ろうと東京本郷のアパートに住み、「ソビエト友の会」の仕事を手伝いながら日本反帝同盟の谷川巖と連絡をとります。しかし、当時の日本共産党は岩田義道、小林多喜二と幹部の虐殺、佐野・鍋山の転向声明など最も困難な時期で、連絡をとるのも極めて困難な時でした。彼は党の影響下にあった日本消費組合連合会と連絡を取り、合法舞台での活動として江東地区の工場や市電車庫などを回って野球チーム

をつくります。

その頃、喬太郎の従妹と結婚していた宮原末勇が特高に逮捕され、危険の迫った喬太郎は地下活動に入ります。豊橋、名古屋、知多など転々としながら半田の自宅に戻った時、スイスからドイツ共産党の機関紙や「ミンテルンの機関紙「ルンドシャウ」が届いていました。それを読んで反ファシズム人民戦線方針などを知り、勇気づけられながら翻訳活動を続けます。

一九三八年、ふたたび上京しますが組織はほとんど壊滅しており、傷心のまま半田へもどり結婚。しかし高まる軍靴の響きのなか、四〇年八月三十日早朝、突然、特高警察に自宅を襲われ治安維持法違反として逮捕。以後二年間の獄中生活、懲役二年執行猶予四年の判決で四二年六月保釈。出所後も喬太郎は「特別要視察人」として半田警察の監視下におかれました。

戦後、彼は半田市を中心に「新建設者同盟」を結成して、革新政党、労組、労働学校などの中心母体としての役割を果たしました。

(「知多 不屈の歴史」より要約)

顕彰碑  
探訪

# 「戦争は罪悪である」 反戦を貫いた竹中彰元に学ぶ

岐阜県不破郡垂井町の岩手にある明泉寺の老僧・竹中彰元は、一九三七年、日中戦争のさなか「戦争は罪悪である」「この戦争は侵略である(趣意)」「莫大な費用を空費し損である戦争はもつこの辺で止めたほうが国家として賢明である」等の反戦発言をして、逮捕され有罪となりました。陸軍刑法違反(造言飛語罪)でした。

七〇年を経て二〇〇七年、真宗大谷派は声明を発表し、処分を下したことが、宗派が犯した大きな過ちであるとして謝罪し、当時の処分を取り消しました。

すでに一九四〇年、国は彰元を「紀元二六〇〇年」の恩赦で減刑し、宗派も処分期間を半減しています。

戦時中、教団を挙げて戦争協力をしてきた真宗大谷派(本山は京都・東本願寺)も、布教使の資格を剥奪するなどして処分を下しま

敗戦までには、国による刑罰も宗派による処分も終わっているのです。なぜ今、あえてそのことを問題にするのかといえば、宗門に属する者が、宗門の戦争責任を改めて見つめなおし、懺悔することにおいて、彰元の平和への願いを受け継ぎたいと願うからです。



十月二十一日(彰元の命日)には、明泉寺において、彰元に学ぶ「彰元さんのつどい」が開かれます。(稲葉当意)

## 時の焦点

二五〇件にもわたったことしのノーベル平和賞候補の中から選ばれたのは、なんとオバマ大統領。世界の人がそうでしたが、一番驚いたのは当然だったようです。流石語大賞ならともかく、世界的にもっとも権威があり、一億二千七百万円もの副賞がつくノーベル賞とは。「核兵器を使用したことのある唯一の核保有国として、米国は、行動する責任をもっています。」

「だから今日、私は明日に信念とともに米国が核兵器のない平和で安全な世界を追求すると約束します。」

春のこのプラハ宣言と核廃絶に向けて決議した秋の国連安保理でのイニシアティブ、四分の一以下に大幅削減に同意した米口戦略核兵器制限交渉の進展。ことし一月就任以来のオバマ大統領の核政策と外交努力は、たしかに人類史上の課題への果敢な挑戦であり、一挙に世界の人々を上げまし未来への明るい展望をもたらすものであります。

## ノーベル平和賞

しかしオバマ大統領を動かしたものは、非核平和の世界を求め、イラク、アフガンの戦争継続に批判的な国際世論。とりわけ核問題については、戦後六四年にわたり、世界唯一の被爆国として、被爆の実相を広めつつ展開してきた日本国民の原水爆禁止運動こそ、今日の国際世論の底流です。

本来ノーベル賞はすでに果たした業績への評価のほず、オバマへの授賞は異例の前倒しであり、公約実現への期待がこめられています。受賞と、これから重責を担うオバマ氏に拍手を送るとともに、何回となく候補にノミネートされてきている「日本被団協」や、半世紀以上にわたり内外の分裂策動に耐え、毎年広く世界大会を開催してきた「日本原水協」の歴史的国際的貢献を喚起したいと思えます。ノーベル平和賞の歴史は百年を超えました。その選考過程には政治的偏向もありました。選考委員会の『百年史回顧録』で一九七四年の佐藤栄作への授賞は「疑問」と反省しています。(元)

## 同盟歌壇

碓田のぼる 選

階段教室の若きらに「治維法と戦争」を語れば席立つ者一人とてなく

評 大学生への講演である。鮮烈な体験談に息をのんでいる姿である。

千葉県 高沢義人

朝しばし強ばる手もてペン握る同盟歌壇へ歌送らむと

評 歌をつくること、それを一つのたたかいとしている作者である。

新潟県 柳川 月

迷いたれば黙して座禅道元の七堂伽藍山紅きなか

評 「深山幽谷の地、永平寺にて」とあった。悟得の境地への憧れか。

福井県 元山章一郎

同居拒みひとり暮らせる友は言う「さびし」と幾度も電話口にて

評 気強いとは言え、老いて生きるものの哀しみを歌って心に沁みる。

新潟県 加茂川ハル子

今年また何処より来しか鶉が裏の林に騒々しく鳴く

評 季節とともに来た。待つてはいたが鶉来れば騒々しいと思つ。

大分県 渡辺 幹生

移り来し大阪の地にも慣れたるか緒方洪庵の「適塾」を観る

評 緒方洪庵は幕末の蘭医。「適塾」は緒方の塾。福沢諭吉も門下生。

和歌山県 中平 喜祥

われ生れる一年前の地下鉄のストに参加の濱子さんに逢う

評 松崎濱子は戦前地下鉄ストをたたかった人。九十七歳で永眠した。

静岡県 江川 佐一

独特の香りが嫌いと言う人もおれどポポーの貰い手多し

評 ポポーは北アメリカ原産と言つ。語感が何となく人を和ませる。

岐阜県 和田 昌三

## 書 棚

『信念と不屈の画家市村三男三』  
なかむらみのる 著

光陽出版社 定価 二〇〇〇円



本書は、歴史から忘れ去られようとしていた、信念と不屈の画家市村三男三を世に蘇らせた人々の記録である。作者は、九七年に『山峡の町で』で多喜二・百合子賞を受賞した作家。わが同盟の活動家である。氏は、日本共産党創立六五周年記念文芸作品長編小説部門で入選した『恩田の人々』で、郵便局の労働組合で政党支持の自由を掲げて闘う人々をえがいて脚光を浴びた作家だ。本書では、自らが先頭に立つて、戦前の暗黒の時代に不屈に闘った市村画伯の業績を掘起こし、「治安維持法犠牲者」の顕彰活動に奔走する人々の姿をルポルタージュ的小説にまとめた。私には久しぶりに「一気に読み切った作品との出会いとあつた。市村三男三は多喜

二と同じ時代にプロレタリア美術運動をにない、弾圧に屈することなく労働運動にも積極的に参加し、下層労働者の姿を描き続け、戦後は、日本美術会の創立に参加して活躍した著名な画家である。三男三の生まれたところは、新潟市に合併した横越村で、市村家は江戸時代以来の名家であった。先祖に市村蜻洲という著名な絵描きが居て、子孫に画家がいることを知った市の担当者が町史に載せようと調査を始めていたところで、奇遇ともいえるなかむらさん達との出会いは劇的であった。こうして「作品を売らない画家」で有名だった三男三の数百点の遺作が処分されることもなく見事に郷里に蘇ったのである。今は、横越が生んだ洋画家として遺作展が何回も開かれ、学童の教材にも使われている。同盟の顕彰活動の成果が見事郷里に根付いたことは嬉しい。(荘)

# 「不戦の誓い新たに

## ―中国平和・連帯の旅―

十月八日～十三日の同盟本部主催の「中国平和・連帯の旅」には二五名が参加しました。北京の中国国際交流協会から事前に申し入



れのおった会談には、斎藤久枝団長、塩田一行副団長、田中幹夫事務局長、ほか友好団体のAALA連帯委員会、国民救援会のメンバーが参加。中国側からは、白宏魁副秘書長、文徳盛アジア州所長に中国社会科学院、そのほか数名が出席しました。

同盟からは、南京国際平和フォーラムを掲載した『治安維持法と現代』誌を贈呈。戦前・戦中過酷な弾圧に抗して反戦・主権在民を主張してたたかった犠牲者の名誉回復を政府に求めていることを紹介。白氏は一昨年来の交流で同盟の活動を十分承知しており、「過去を正しく認識し、未来の鏡にしましよ

う」と語りました。夕刻からは、晩さん会で交流を深めました。

新装の南京大虐殺記念館を訪問。侯曙光副館長、生存者の伍正禧さん(86)、楊翠英さん(85)から、日本軍の生々しい殺戮の話に参加者全員声もありませんでした。

記念碑に不戦を誓い犠牲者を追悼して花環と千羽鶴を捧げました。新幹線で上海を訪問、来年の万博会場や外灘夜景を楽しみました。

### 事務局日誌

10月6～7日 東海ブロック会議  
10月8～9日 北陸・信越ブロック会議

10月8～13日 中国平和・連帯の旅(北京・南京・上海)

10月20日 三役会議。外務省人権人道課長と意見交換会

10月21日 中央常任理事会  
10月21～22日 第34回全国大会

10月23日 国際人権活動日本委員会幹事会

10月28日 千葉法相と会見(日本委員会よびかけ)

10月30日 日本国際法律家協会理事会

## 『治安維持法と現代』 2009年秋季号 好評発売中

【主な内容】「原爆症認定集団訴訟19連勝で勝ちとった『確認書』の意義と今後の課題」田中熙己、「中国人戦争被害者訴訟の到達点と課題」南典男、「治安維持法犠牲者に対する日弁連の救済勧告」橋本敦、「ナチス抵抗軍人の有罪取消し、独で包括的名誉回復法成立」夏目雅至、「反戦兵士の新聞『聳ゆるマスト』の阪口喜一郎らが残したものは」澤田良平、「治安維持法化の母・同志」松崎濱子、「『東俱知安行』水沢老人の実像は」宮田汎、「治安維持法と『四高反帝同盟事件』」大森定嗣、「北方教育運動と治安維持法弾圧」近江谷昭二郎、「信州別所温泉の山宣記念碑」平林茂衛など、学習材料が満載。A5版、定価1000円、送料210円、各都道府県本部でお求めを。



治安維持法と現代を結ぶ総合誌

企画・編集 治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟

### 言論・表現の自由を求める12・4日比谷集会

とき 12月4日(金) 午後6時30分  
ところ 日比谷公会堂

記念講演 「かけがえのない表現の自由 憲法を語る」

ジェームス三木さん(脚本家)

文化行事 協力券500円

言論・表現の自由を求める12・4日比谷集会実行委員会

### 戦後補償問題 特集号